



READ Me



ネットワークから最新のソフトウェアをダウンロードできることは、インターネットの大きな魅力の1つです。このコーナー「READ Me」では、ネットワークから入手できる最新のソフトウェアに焦点をあてて、必ず役に立つ情報満載でお届けします。まずは今月の注目ソフトから。

HOTTEST TOOLS

今月の注目ソフト

best 6

HOTTEST TOOLS

HTML Maker AZUKI Ver.1.29



動作環境

OS : ウィンドウズ95/98、NT4.0
 種別 : フリーソフトウェア
 作者 : 森川元也
 CD-ROM収録先 : Win Hmk
 関連ページ : <http://www02.u-page.so-net.ne.jp/dc4/morikawa/>

Win

HTML Maker AZUKIは、タグを挿入するタイプのHTMLファイル作成ソフトだ。この形式のソフトはいくつかあるが、高機能な上にフリーソフトウェアというのがうれしい。画面の上部に並んだボタンをクリックするとタグが挿入されるのは当然だが、テーブルやフレーム、フォームのボタンでは設定画面で属性を指定でき、さらにテーブルではシンプルなものがGUIで表を作成できる。登録し

たテンプレートの挿入や16進数の色を生成する機能など至れり尽くせりだ。画面は3ペインで構成されており、左のツリーに表示されたHTMLファイルをクリックして「リンクとして挿入」を選べば<A>タグが挿入され、GIFファイルやJPEGファイルで同じようにすればタグが挿入される。下のペインには「ツール」メニューにある「ローカルリンクチェック」と「HTML文法チェック」の結果が表示される。さらに膨大なJavaScriptのリファレンスとサンプルプログラムが付属しており、それだけでもたいへんお得な内容になっている。HTML手書き派の人はインストールするしかないだろう。



HOTTEST TOOLS

秀丸エディタ Ver.3.00



動作環境

動作環境
 OS : ウィンドウズ95/98、NT3.51/4.0
 種別 : シェアウェア 4,000円
 作者 : 斉藤秀夫
 CD-ROM収録先 : Win Hidemaru 32bit
 関連ページ : <http://hidemaru.xaxon.co.jp/>

Win

秀丸エディタは、言わずと知れたウィンドウズの定番テキストエディタだ。今回「3.00」と大きくバージョン番号を上げて、HTMLのタグに色を付けて表示する機能やテキスト中のURLをダブルクリックするとブラウザを起動する機能が付いた。HTMLタグに色を付ける機能は「その他」メニューから「ファイルタイプ別の設定」を選

び、「カラー」タブで設定する。タグだけでなく、タグの属性、URL、メールアドレス、ファイル名にも個別に色を指定でき、「下線」や「極太」、「影付き」などのスタイルもさまざまなものが用意されている。URLやメールアドレスをマウスで操作したときの動作は、「その他」メニューから「動作環境」を選び、「ユーザーインターフェース」で設定する。ワンクリックだけでなく、ダブルクリックやトリプルクリックでブラウザやメールソフトを開くようにマウス操作を選択できる。数あるテキストエディタの中でも豊富な機能を持つ秀丸エディタだが、こうした機能はこれまで欠けていた。Ver.3.00によって秀丸エディタはほとんど完璧に近くなったと言えるだろう。



HOTTEST
TOOLS

FFFTP Ver.1.62



動作環境

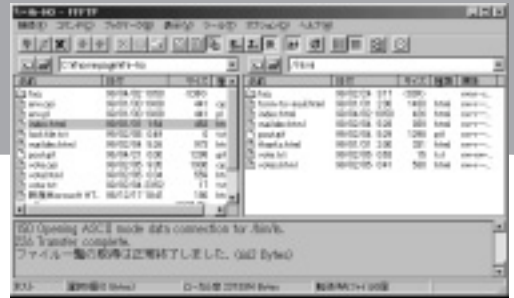
OS : ウィンドウズ95/98、NT4.0
種別 : フリーソフトウェア
作者 : 曾田
CD-ROM収録先 : Win Ffftp
関連ページ : <http://www2.biglobe.ne.jp/~sota/>

Win

高機能なFTPソフトと言えば、これまではど

うしてもシェアウェア
に頼ることが多かつ

た。しかし最近では、性能でシェアウェアに引けを取らないフリーのFTPソフトが増えてきた。FFFTPもその1つだ。漢字コードの自動変換や属性の変更もきちんとサポートしている。特徴的な点は、「ミラーリング」によるアップロードとダウンロードの機能を備えていることで、サーバーとパソコンのハード



ディスクの内容を同期して、不要なファイルを自動的に削除できる（もちろん削除したくないファイルの指定もできる）。今使っているFTPソフトに不満があるならFFFTPへの乗り換えを検討してみよう。

HOTTEST
TOOLS

GetNew Ver.1.61



動作環境

OS : ウィンドウズ95/98、NT4.0
種別 : シェアウェア 1,000円
作者 : ジャラス
CD-ROM収録先 : Win Getnew
関連ページ : http://www.jin.ne.jp/i-net_agency/

Win

GetNewは、ウェブ上で公開されているオンラインソフトがバージョンアップされたかどうかを調べ、更新されたソフトだけを自動的にダウンロードするソフトだ。あらかじめ登録されたソフトの中から自分の好きなものを選んでリストに入れておく。あとはボタンを押すだけで選んだソフトがすべてチェックされ、更新されたものはダウンロードされる。オンラインソフト好きにはこたえられない一品だ。



HOTTEST
TOOLS

or-ne コンバータ Ver.1.03



動作環境

OS : ウィンドウズ95/98、NT4.0
種別 : フリーソフトウェア
作者 : 中村正明
CD-ROM収録先 : Win Orneconv
関連ページ : <http://www.netpassport.or.jp/~wmasanak/program/>

Win

4月1日からドメイン名が「or.jp」から「ne.jp」に変更されたプロバイダーが相当な

数になるため、「ホームページが急に見えなくなった」といった混乱が予想される。or-ne コンバータを使えば、テキストやHTMLファイルの中にあるURLやメールアドレスを適切なドメイン名に一括して変換できるので、自分のホームページのリンク集やブラウザの「お気に入り」などを修正する作業がたいへん楽になる。なお、実行にはVisual Basic 4.0のランタイムDLLが必要なので、窓の杜



(<http://www.forest.impress.co.jp/>)の「プログラミング」コーナーからダウンロードしておくといいだろう。

HOTTEST
TOOLS

ORNE Ver.1.2



動作環境

OS : MacOS (漢字Talk7.5以上)
種別 : フリーソフトウェア (寄付募集)
作者 : 有田幸生
CD-ROM収録先 : Mac ORNE
関連ページ : <http://www.interq.or.jp/blue/yukikun/software/orne.html>

Mac

ORNEもor-ne コンバータと同じく、テキストファイルやHTMLファイルの中の「or.jp」を「ne.jp」に適切に変換してくれるソフトだ。付属の説明書には、ネットスケープコミュニケーションやインターネット 익스プローラ、Eudoraなど主要なソフトウェアではどのファイルを指定すればよいか親切な解説があるので参考にするといいだろう。





Let's Try!



「便利なソフトがあるみたいだけど、使い方がよくわからない」とか、「英語版のソフトを使ってみたくて、英語が読めないからちょっと……」などと思っている人はいませんか？ このコーナーでは、そんなあなたのためにフリーソフトウェアやシェアウェアのインストール方法からソフトウェアの活用法までしっかり解説いたします。

今月の徹底解説ソフト

ウイルススキャン Ver.4.0 for Windows95/98

ウイルススキャンは、ウイルスの自動チェックやデータの自動更新など豊富な機能を持つウイルス対策ソフトです。本誌の付録CD-ROMには、30日間限定で使用できるお試し版を収録してあります。今年に入ってからインターネット上では「Happy99」や「Melissa」といったウイルスが流行していますので、ウイルススキャンで自分のパソコンが感染していないかチェックしてみるといいでしょう。

動作環境

OS: ウィンドウズ95/98

種別: お試し版

作者: ネットワークアソシエイツ株式会社

CD-ROM収録先: B Trial Win Vscan

関連ページ: <http://www.nai.com/japan/>

Win

ウイルススキャンをインストールしよう

1

ウイルススキャンは、本誌の付録CD-ROM Bに収録されています。「Trial」「Win」



「Vscan」の順にフォルダーを開いて、「Setup」アイコンをダブルクリックすると、インストールが始まります。

2

最初の画面で「次へ」をクリックすると、使用許諾契約書が表示されます。よく読んで、特に問題がなければ「はい」をクリックします。



3

インストールの方法とプログラムのインストール先のフォルダーを選択する画面が表示されます。特に変更することがなければ、そのまま「次へ」をクリックします。その次の画面で「次へ」をクリックすれば、ファイルのコピーが始まります。



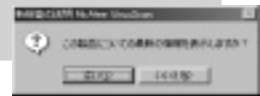
5

緊急時用のフロッピーディスクを作成する画面が表示されます。ここで作成する場合は「継続」をクリックします。インストール後に作成する場合は「キャンセル」をクリックします。



6

新機能の説明を表示するかどうか質問されます。「はい」をクリックするとウィンドウズのメモ帳で新機能の説明が表示されます。



7

ハードディスクのルートフォルダーにあるAUTOEXEC.BATファイルを修正したと知らせる画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



8

インストールの終了画面が表示されます。「はい」をチェックして「終了」をクリックし、ウィンドウズを再起動させましょう。





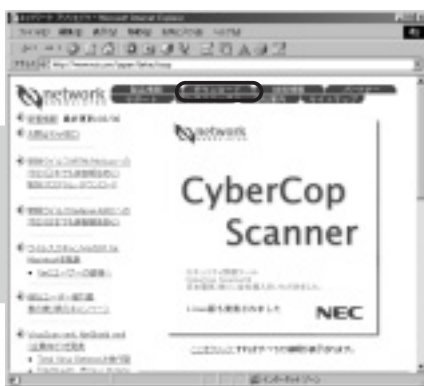
ウイルスデータファイルを更新しよう

新しい種類のウイルスは毎日のように発見されています。新しいウイルスに対応するには、ウイルス対策ソフトのデータファイルを最新のものにする必要があります。お試し版のウイルススキャンのデータファイルは古いものなので、まずウェブから最新のデータファイルをダウンロードしましょう。

注意：この記事で説明しているネットワークアソシエイツ社のホームページは4月10日現在のものです。

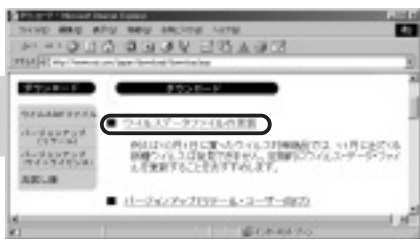
1

ウイルススキャン用のデータファイルはネットワークアソシエイツ社のホームページ (<http://www.nai.com/japan/>) からダウンロードできます。ホームページの上にある「ダウンロード」をクリックします。



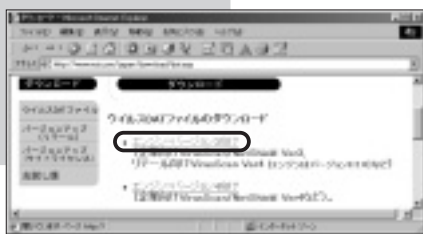
2

「ウイルスデータファイルの更新」をクリックします。



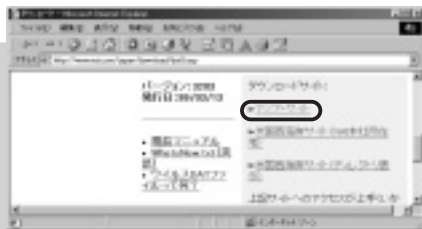
3

「エンジン・バージョン3向け」をクリックします。ウイルススキャンお試し版のバージョンは4ですが、エンジンはバージョン3を使うことに注意してください。



4

「ダウンロードサイト」の下からどれかを選んでファイルをダウンロードします。ダウンロードするファイルは「dat-xxx.zip」という名前になります。デスクトップなど好きな場所にファイルを保存します。



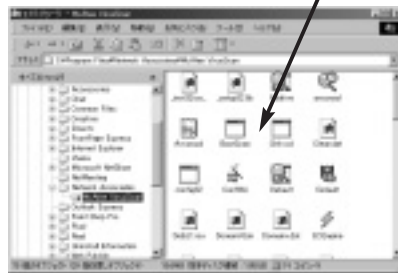
5

ダウンロードしたファイルをLhasaなどの解凍ソフトを使って解凍します。Lhasaをインストールする方法については、[ページ](#)をご覧ください。



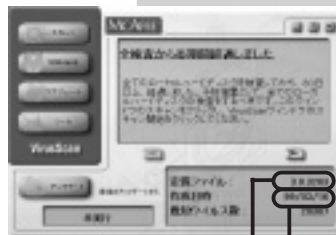
6

解凍されたファイルをすべてウイルススキャンのフォルダーに移動します。まず、ウィンドウズのエクスプローラを使ってウイルススキャンのフォルダーを開きます。インストールの際にインストール先を変更していなければ、「C:」 「Program Files」 「Network Associates」 「McAfee Virus Scan」となります。解凍されたファイルをすべて選択し、ドラッグアンドドロップでウイルススキャンのフォルダーに移動します。



7

ウィンドウズのスタートメニューから「プログラム」 「McAfee VirusScan」 「McAfee VirusScan セントラル」を順にクリックすると、ウイルススキャンのセントラル画面が開きます。画面右下に表示される情報からウイルスデータファイルのバージョンや日付がわかります。



↑ウイルスデータファイルの日付
↑ウイルスデータファイルのバージョン



ウイルススキャンを 使ってみよう

スタートメニューから起動するウイルススキャンのセントラル画面では、ウイルススキャンを起動したり各種の設定を行ったりできます。まずはウイルススキャンでハードディスクのチェックを試みましょう。

タスクバーに常駐してウイルスを監視する「VShield」の設定を行います。

定期的にウイルススキャンを起動してチェックするための設定を行います。

その他の設定を行います。

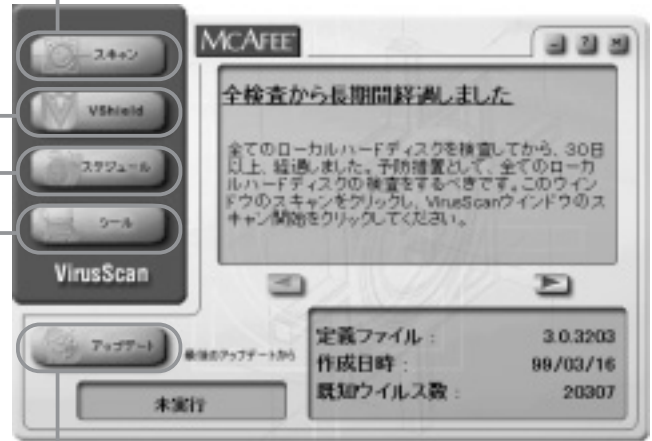
McAfeeへ送付：検出された新しいウイルスをネットワークアンソシエイツ社に通知できます（お試し版では使えません）。

エマージェンシーディスク：緊急時用のフロッピーディスクを作成します。

ウイルスリスト：ウイルスデータファイルに登録されているウイルスの一覧を表示します。

ウイルススキャンを起動します。

ウイルススキャンのセントラル画面

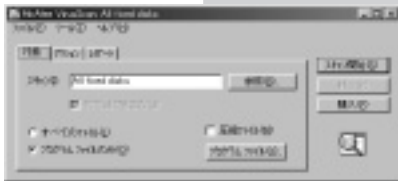


ウイルスデータファイルを自動的にダウンロードして更新します。お試し版では使えません。

基本的な使い方

1

ウイルススキャンのセントラル画面で「スキャン」をクリックすると、ウイルススキャンが起動します。そのまま「スキャン開始」をクリックすればハードディスクのウイルスチェックが始まります。プログラムファイルだけでなく、ワードやエクセルの文書もすべてチェックされます。



2

ウイルスが見つかったと警告音が鳴り、感染したファイルとウイルスの名前が表示されます。「ウイルスを除去」をクリックしてウイルスを除去してください。除去できない場合は、「削除」をクリックしてファイルごと削除してください。



3

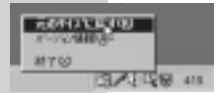
ウイルスチェックが終わると、結果が一覧表示されます。



定期的にウイルスチェック

1

ウイルススキャンを定期的に起動してウイルスチェックを行うには、タスクバーのトレイにある虫眼鏡のアイコンを右クリックし、「元のサイズに戻す」を選びます。



2

リストから「Default Scan」を選び、「タスクメニュー」の「プロパティ」を選ぶと、定期チェックの設定ができます。



3

「タスクプロパティ」画面で「スケジュール」タブをクリックし、設定後に「OK」ボタンを押せば、定期チェックが始まります。

ここをチェックすると、定期的なウイルスチェックができる。

どのような間隔でウイルスをチェックするか決める。

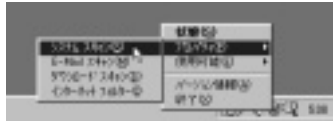
何曜日の何時からチェックを始めるかを決める。曜日のチェックをはずせばその曜日にはチェックを行わない。





VShieldで完全ガードする

VShieldはファイルの操作を常に監視して、自動的にウイルスのチェックを行う機能です。タスクバーのトレイにある盾のアイコンを右クリックし、「プロパティ」「システムスキャン」を選ぶと、VShieldの設定画面が開きます。



ファイルを開いたりコピーしたりしたときにそのファイルにウイルスが含まれていないかをチェックするための設定ができます。

電子メールを受信したときにメッセージにウイルスが含まれていないかをチェックするための設定ができます。MAPIを使わない普通のインターネットメールの場合は、次の「ダウンロードスキャン」の設定が使われます。

インターネットからファイルをダウンロードするときにウイルスが含まれていないかをチェックするための設定ができます。

ActiveXコントロールやJavaアプレットをダウンロードするときにウイルスが含まれていないかをチェックするための設定ができます。危険なサイトのIPアドレスやURLを指定してダウンロードさせないような設定もできます。



ここをチェックすると、ファイルを開いたりコピーしたりしたときのウイルスチェックが有効になります。

ファイルに対してどのような操作をしたときにウイルスをチェックするかを選択できます。

フロッピーディスクにアクセスしたときにウイルスチェックを行うかどうか指定できます。

どのようなファイルを操作したときにウイルスチェックを行うかを設定します。「プログラムファイルのみ」をチェックすると、プログラムファイル（EXEファイルやDLLファイル）のほかにワードやエクセルの文書も対象になります。「圧縮ファイル」をチェックするとLZHファイルやZIPファイルの内容もチェックされます。

VShieldの設定を行うのにパスワードが必要になるようにします。複数のユーザーでパソコンを共有している環境の人は設定するといいでしょう。

ウィザード形式で質問に答えるだけで自動的に設定が行われます。

製品版ならデータの更新も簡単

ウイルススキャンの製品版を購入すると、インターネットから自動的にウイルスデータファイルをダウンロードして更新する機能が使えるようになります。製品版はパソコンショップで購入できるほか、b-store.com (<http://www.b-store.com/jp/>) のように購入と同時にダウンロードできるオンラインショッピングサイトから入手したり、「ウィンドウズ98 Plus!」に付属しているものを使用したりできます。

1 ウイルススキャンのセントラル画面で「アップデート」をクリックすると、データファイルのアップデートが始まります。「更新」をクリックします。



2 ダイヤルアップ接続の場合は、ウィンドウズの「ダイヤルアップネットワーク」からインターネットに接続してから「次へ」をクリックします。



3 ウイルスデータファイルがダウンロードされ、自動的に更新されます。プロキシサーバー経由でウェブに接続している環境ではダウンロードできない場合があることに注意してください。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp